

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径

No.59

9月号
2013 September

今月のことば

七転び八起き

たび重なる失敗にもくじけず、勇気を出して奮起することのたとえです。何度失敗しても諦めてはいけないことを言っています。人生の浮き沈みが激しいことのたとえとしても言います。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

学級担任の危機管理

- 学級担任においても、毎日さまざまな危機的な場面に遭遇しており、個々の問題に対処する方法を習得している必要があります。
- 危機を回避するためには事前に予防策をとっておくことが大切です。予防こそ、最大の危機管理対策だと言えます。

今月の記念日

清掃の日(9月24日)

「廃棄物処理及び清掃に関する法律」が昭和46年のこの日に施行されたことにちなんで定められました。この日から10月1日までが「環境衛生週間」です。

求められる問題対処法の習得

近年、学校においても「危機管理」が日常的に定着しつつあります。しかし、ここでは、例えば不審者の対応であったり、火災や地震などの災害対策であったりします。多くの場合、非日常の事態を想定した備えとして受けとめられているようです。しかも、危機管理の問題を考えることは、多くの場合、管理職の仕事だととらえられています。

学校教育における危機管理は決して管理職だけでなく、個々の学級担任の問題でもあります。なぜならば、学級担任は、日々の教育指導においてさまざまな問題場面に遭遇しながら職務に当たっているからです。

例えば、算数の時間における子どものつまずき、体育などの時間に起こる思わぬけがや事故、子ども同士のトラブル、保護者からの苦情など、担任としてその場で解決がせまられる問題はさまざまです。これらの問題は学級担任にとって危機的な場面と言えます。

例えば、体育の時間に子どもが鉄棒から落ちてけがをしたときどう対処するか。給食の時間に子どもが吐いたときはどう処理するか。保護者から苦情を受けたときどう対応するかなど、学級担任が遭遇する問題状況には枚挙にいとまが

ありません。

このように考えると、学級担任としての日常は危機管理そのものであり、問題解決の連続だと言えます。危機管理への対処は決して管理職だけの問題ではないことがわかります。

学級担任は、学習指導や生徒指導、給食指導はもとより、学級事務の処理などを行っています。これらの中で生じた問題場面において、個々の問題処理の手順や方法を具体的に習得している必要があります。

事故や事件などの問題場面に遭遇したときに被害を最小限に食い止めるために、個々の問題場面ごとに学校としてのマニュアルを作成しておきます。しかし、問題の発生時においてはそれがそのまま使えるとは言えません。状況に応じて臨機応変に対処することが求められます。

予防こそ最大の危機管理対策

危機的な場面に遭遇したときにはできるだけリスクを最小限にとどめようと努力する必要があります。しかしできれば、こうした場面に出会わないことに越したことはありません。すなわち危機の回避であり予防です。

未然に予防するためには、起こりうる危機的な場面をさまざまに想定すると

ともに、それぞれに対して事前に対策をとることです。

例えば、鉄棒を使った指導では、鉄棒の下にマットや砂などを敷いておきます。火災などの災害に備えて避難訓練を繰り返して実施します。不登校ぎみの子どもには本人はもとより、保護者と密接に連絡し合います。「備えあれば憂いなし」です。

予防こそが最大の危機管理対策であると言えます。私たちが万が一病気になったりけがをしたりしたとき、どう治療するかを考えておくことは大切です。と同時に、けがや病気にならないようにするためにはどうしたらよいかを考え、実行することがもっと大切です。学校における危機管理の問題は、けがや病気の予防と治療に置き換えて考えるとわかりやすいでしょう。

子どもたちに起こりうる問題場면을想定し、それぞれの場面での対処法の手順をマニュアルとして書き出しておきます。また、それぞれの問題場面が起きないようにするための事前の対策を整理しておきます。危機の前兆現象を察知する能力も求められます。

危機回避のための事前策は、自校や他校で過去に発生した問題がどのようなもので、それらの問題をどのように解決したのか。予防の方策は、経験や体験などから教訓として導き出されます。

茶髪にしてきた子ども

Q. 夏休み明けのことです。ある男の子が頭の毛を茶色く染めて学校に登校してきたのです。周囲の子どもたちもびっくりしていました。このような子どもや保護者には、担任としてどのように指導したらよいのでしょうか。

A. 夏休みなどの長期休業日が終わった後は、学級担任として特に要注意です。子どもたちはそれまで割合自由な生活を送ってきているからです。生活のリズムが崩れている場合もあります。それは服装や言葉遣い、ふるまいなどに表れます。

茶髪にしてきた子どもにはまず「どうして頭の毛を茶色く染めてきたのか」を聞き出します。両親が認めているのかもしれませんが、勧めたのかもわかりませんから、保護者に確かめる必要もあります。いずれにしてもまずは茶髪にした背景や理由を確かめます。この段階では、学級担任の個人的な見解で判断したり対処したりすることを避けます。

そのうえで、管理職や生徒指導主任などに連絡・相談し、学校としての方針を確かめます。その際、当該の子どもの意思を尊重することと、周囲の子どもたちへの影響など総合的に検討します。場合によっては全教員で話し合い、共通理解を図ります。

学校として「禁止する」という方針が打ち出されたときには、本人や保護者に理由も含めて丁寧に説明します。保護者に説明するときには、管理職などが同席することも考えられます。

なお、学校としてのルールがすでに定められている場合には、それに基づいて指導を徹底させます。事前に周知しておくことも大切です。

教育の動向

全国学力・学習状況調査

文部科学省による平成25年度の全国学力・学習状況調査は小学校6年、中学校3年の全児童生徒を対象に、4月24日(水)に実施されました。結果は8月下旬に公表される予定です。

本年度はこれに加えて、保護者に対する調査が5月下旬から6月下旬にかけて実施されました。計画によると、対象は無作為に抽出された公立小中学校の保護者です。小学校は430校(約2万人)、中学校は414校(約3万人)とされています。

調査内容は、保護者の子どもへの接し方や子どもの教育に対する考え方、

保護者の意識や行動、教育費などです。例えば次のような質問内容です。

「親が言わなくても、自分から勉強しているか」「子どもが悪いことをしたらきちんと叱っているか」「どの段階の学校まで進んでほしいと思っているか」「学習塾や習い事など学校以外の教育に1か月あたり平均どれくらい支出しているか」「地域の行事に子どもと一緒に参加しているか」「家族全体の世帯収入はどれくらいか」など。

調査結果をもとに、家庭の状況と子どもの学力との関係などを分析検討されます。調査の結果は、平成26年3月頃に公表される予定です。

また、同時期にすべての教育委員会を対象に、教育施策の実施状況についての調査も実施されました。



コラム 北先生の授業力向上術

問題解決的な学習① まとめる(考察する)

一般に「学習をまとめる」と言われている活動のひとつは、これまでの学習を振り返り、調べたことなどを整理することです。このことについては前号で説明しました。

まとめる場面の第2のステップは、これまでの調べ学習で習得したことや整理したものをもとに、単元や題材の導入場面で設定した「学習問題」に対する自分の考えを引き出しまとめることです。平たく言えば「問題の答えを考えさせることだ」と言えます。この作業には思考や判断を伴いますから、「考察する」という活動です。

これまでの多くの問題解決的な学習では、調べたことを整理するだけで終わっていたようです。これでは子どもたちが問題を解決したという状態にま

で立ち至ったとは言えません。

単元(題材)の学習問題は単元の目標と一体に設定されていますから、子どもが考察した内容は単元の目標に準拠した評価の対象として貴重な評価資料になります。これまでの実践では、こうした活動が十分行われてきませんでした。そのため、単元の目標が定着しているかどうかをきちんと評価されてこなかったと言えます。

調べたことは同じでも、考えたことには違いがあります。そのため、その後、子どもたちが考察したことを発表させます。学び合う場を設けることによって、みんなでよりよい考えを共有することができます。考えたことに違いがある場合には、論点を明確にすることによって、よりよい考えを創造する討論活動が展開されます。これは集団思考と言われる営みです。

INFORMATION

なぜ子どもに 社会科を 学ばせるのか

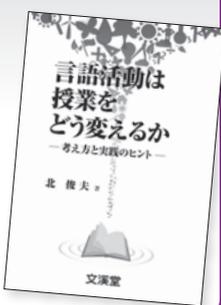


◎著者 北 俊夫
◎定価 998円(税込)
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 104ページ

言語活動は 授業を どう変えるか

—考え方と実践のヒント—



◎著者 北 俊夫
◎定価 998円(税込)
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 112ページ

編集後記

最近、教育の小径のバックナンバーを揃えたいというお問合せが増えています。バックナンバーは下記サイトでご覧いただけますし、印刷も可能です。また「過去のタイトル一覧」から気になる号を選ぶこともできます。「ぶんけい 教育の小径」でご検索ください。(T記)
<http://www.bunkei.co.jp/2013/monthly.html>



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2013年9月1日